

専門委員会開催報告

専門委員会名	第2回「原子力アゴラ」研究専門委員会
開催日時	平成27年3月26日(木) 10:00~12:00
開催場所	東京大学工学部8号館2階226会議室
参加人数	13名 上坂充、池上徹彦、峯尾英章、小原徹、村田勲、三浦信之、住川雅晴、橋爪秀利(Polycom)、横尾健、吉村真人、森口泰孝、吉津達弘、長谷川秀一(記)
議 事	<p>資料:</p> <p>26-1-1 「原子力アゴラ」研究専門委員会 設立申請書</p> <p>26-1-2 「原子力アゴラ」研究専門委員会での議題案</p> <p>26-1-3 日本原子力学会研究専門委員会「原子力アゴラ」第1回委員会前半 議事メモ</p> <p>26-1-4 研究開発の俯瞰報告書(2015年)環境・エネルギー分野の概要</p> <p>26-1-5 原子力人材育成の課題と今後の対応(案)</p> <p>26-1-6 原子力人材育成戦略検討会議からの提言</p> <p>26-1-7 回収資料</p> <p>議事:</p> <p>1 自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> • 出席者おのおのの自己紹介がなされた。 <p>2 資料確認</p> <ul style="list-style-type: none"> • 上坂先生より資料の説明がなされた。 • 26-1-1 が確認された。 • 26-1-2 が説明された。外部の方にもご参加いただいている。 • 26-1-3 が説明された。上坂先生が出席されている。 • 26-1-4 が説明された。この資料にだけ原子力の位置づけが明示されている。JST は中立的な立場である。推進・廃止いずれにしろ必要となる(2)の項目が多い。 • 26-1-5、26-1-6 が説明された。人材育成プログラムは 4 年半前から始まっている。重要事項(1)研究炉:停止中、(2)海外人材育成:新プラントは海外、(3)司令塔:設立強化。ロードマップも示されている。 <p>3 自由討論</p> <ul style="list-style-type: none"> • 政府に対する提言をまとめる場なのか？ • 安全について国民と専門家の間でのギャップが大きいのではないかと？国民に対してデータを開示すべきではないか。スマートに原子力発電技術を持ち込んだが、被ばくデータなど背景資料が開示されていないのではないかと。それらについて開示なども提言に入れてはどうか。 • これまでも同じような議論が繰り返されてきた。国民の理解というのは難しい

のではない。原子力がなければどうなるのかということまで示すことが必要。

- 政府の原子力人材も減っている。かなりの危機感を持つべき。
- 3. 11を振り返ることは必要。
- わかることとわからないことを、データを開示することで示す。アクセスしにくいデータを見えるようにする。
- データを並べるわけではなく、いろいろな視点を示すことが重要である。
- 受ける側の立場に立ってデータを取捨選択・翻訳が必要。
- データは十分出ているが、国民は安心を求めている。専門家・技術を信頼しているのか、どうかという問題なのではないか。米国は専門機関と国民の間でコミュニケーションを長年とってきた。
- リスクと便益を示して選択肢を示す。リスクはゼロでないことを理解してもらうのが必要。自動車と比べてみると原子力は信頼されていないのが原因ではないか。
- 専門家同士の議論が健全かどうかというのを国民は感じている。アゴラはそのきっかけになるようなアウトプットが必要。
- 宇宙分野でもパブリックミーティングが重要との認識。しかしながらただ集まっただけでは議論が発散する。
- 国民との対話、どのような立場かに依存する。それより何ができるかなど技術ベースのほうを議論すべき。
- 信頼を得るための1つの要素がデータ公開になるのではないか。
- 原子力学会でも定期記者会見を行うことになった。ここでいろいろなことが取り上げられている。ファクト(事実)はしっかり示すべき。
- 福島では、予備電源は上から下へ下ろされた。また、電源車のプラグがあわなかった。1000年に一度なら設計に反映必要=>ハザードリスク
- 技術者が納得できるような技術の提言が望ましいのでは。教育では彼らがもっとも影響力が大きい。今後、技術者がいなくなるのが大きな問題となり得る。ドイツなどで起こりつつある。日本はまだ優秀な技術者が残っている。廃棄物に関して、処分方法が最適なのかと多く技術専門家からの質問を受ける。
- わかりやすく伝えることが重要。もんじゅ、ガラス固化などの状況が信頼されていない状況につながっているのではないか。技術的な点を重視すべき。
- 学生にはどのような分野に進むとしても、技術を身につけることの重要性を強調している。以上から技術を中心に話を進めるのがよいと思われる。
- 国民というのが何を意味しているのか難しいところがある。信頼を得るためには少人数での交流も重要ではないか。
- 学生はやはり実際のもので扱うことで理解が促進される。研究炉などに関しては合理的な規制が可能ではないか。
- 原子力学会記者会見で紹介していただく。
- 小委員会で議題を検討する。

	<ul style="list-style-type: none">• いろいろ問題があるので、とにかく何かを取り上げて始めるのがよい。その時点での提言をまとめられればよい。 <p>4 その他 次回委員会は5月最終週を目処にする。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	

平成 27 年 11 月 17 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第1回「原子力アゴラ」研究専門委員会
開催日時	平成27年3月11日(水) 15:00~17:00
開催場所	日本原子力学会会議室
参加人数	7名 上坂充主査、池上徹彦、峯尾英章、大井川宏之、三浦信之、早船浩樹、田中隆則、吉村真人
議事	<p>1 自己紹介</p> <p>池上:COIに原子力で申請・不採択の経緯、丁寧な議論の場がない 峯尾:Innovation 期待、アゴラを活用期待 三浦:核燃料再処理に従事、ガラス固化国内自主開発 大井川:JAEA戦略室、高速炉物理、ADS核変換、本音・技術ベースの議論の必要性 早船:FBR、高速炉、もんじゅ、次世代炉設計(震災でストップ)、Pu マネージメント 田中:エネルギー総合工学研究所、次世代軽水炉検討、通産省、IAEA、OECD 経験、他学会は原子力学会と組織で連携は難しい、会長個人としては前向き 吉村:日立にて海外展開・人材育成、仕事は外かもしれないが日本での原子力の基盤が重要 上坂:COI 申請から関わり 軽水炉、高速炉、核融合、基礎研究、人材育成、国際を通じた技術者の本音の議論の場にできれば</p> <p>2 資料説明</p> <p>JST CRDS 原子力撤退のケースも検討、エネルギー全体を俯瞰、時間が掛かるのでは？</p> <p>原子力人材育成ネットワークロードマップ 文科省・経産省・外務省・内閣府の支援で4年間活動、10年間のロードマップ作成中</p> <p>経産省エネ庁原子力小委・WG 日本原子力学会委員会活動と連携し、発電炉の技術開発・人材育成ロードマップ作成中、エネルギーミックスが入ると新型炉・再処理が入るか？</p> <p>3 議事メモ</p> <ul style="list-style-type: none">・様々な施策があるが、前提・条件(“足枷”)の中で実施、“足枷”を外した議論をアゴラでできないか？・進め方につき、具体的テーマを設定したい・福島汚染水問題 トリチウム等につきデータはあるが社会を見て段階的に進展

	<ul style="list-style-type: none">・福島廃炉問題 原子力学会は廃炉検討委員会で活動中・原子力賠償・研究炉問題 すべて停止中、安全規制の問題、基礎研究・人材育成で喫緊・研究施設のバックエンド(廃棄物処理)オールジャパンで対応しかない・企業の戦略・活動はまずは平成 27 年度末までで、提案書作成 <p style="text-align: right;">以上</p>
備考	